

日本人研究者の貢献

在モーリタニア日本国大使館

前野ウルド浩太郎博士は、2011年4月からモーリタニアにおいてサバクトビバッタの研究を行っている昆虫学研究者です。

サバクトビバッタは、サハラ砂漠において大発生し、農作物に甚大な被害をもたらすバッタで、アフリカの多くの国にとって大きな問題となっていますが、根本的な解決策が見出されていません。

TICADVI のナイロビ宣言においても、食料不足及び自然災害は我が国が対処すべき地球規模の課題の一つとして挙げられています。前野博士はまさにこの問題を解決しようと立ち上がり、モーリタニアにてフィールドワークを行う唯一の先進国の研究者として活躍している研究者です。「ウルド」というミドルネームは、モーリタニアでの活躍が認められ、モーリタニア国立サバクトビバッタ研究所長 (Dr. Mohamed Abdallahi Ould Babah Ebbe) より授かったものです。同博士は、モーリタニアにおける研究を経て、現在は日本において国立研究開発法人「国際農林水産業研究センター」に研究員として所属していますが、バッタが大発生する時期に合わせ、9月から12月頃に現地を訪れ、国立サバクトビバッタ研究所を拠点にフィールドワークを行い、モーリタニアが直面する問題解決のために貢献しています。

また、2017年5月に発売された『バッタを倒しにアフリカへ』（光文社新書）は新書大賞2018や毎日出版文化賞、第6回ブクログ大賞を受賞する等ベストセラーとして話題になり、研究内容は当然のことながら、これまであまり知られていなかったモーリタニアの生活や文化等を広く日本人に周知するきっかけにもなりました。